

国語科学習指導案

日 時 令和5年12月5日(火) 第3校時		
授業者 松本 大智	場所 1年4組教室	対象 1年4組
単元(題材)名 項目を立てて書こう・読み手の立場に立つ [推敲]		

1 単元の目標

伝える事柄・目的・相手に応じた情報の整理のしかたを理解する

相手にとって必要な情報が明確に伝わるように、情報を整理してわかりやすく書く

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C やや努力を要する
(知識及び技能)			
(思考力・判断力・表現力等)	読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかなどを検討している。	読み手の立場に立って、誤記はないか、伝える情報が正確かなどを検討している。	表現や伝える情報が適切かなどを検討している。
(主体的に学習に取り組む態度)	積極的に友人にアドバイスしている。また、自身の案内文もより良いものにしようと周りの意見などを参考に適切な言葉を選び、粘り強く文章を整え、学習課題に沿って推敲している。	友人にアドバイスし、自身の案内文も粘り強く文章を整え、学習課題に沿って推敲している。	文章を整え、自分なりに案内文を書こうとしている。

3 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

目標：自分が書いた案内文を推敲し、読み手の立場に立った適切な案内文を書こう

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りを行う。 ・学習の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を確かめ、おおまかな学習の流れについて説明しておく。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた案内文を小集団(3～4人)で読み合い、気づいた点を伝え合う。 <p>★探究タイム</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>積極的に意見を出し、自他の案内文をより良いものにしようとしている。 (授業観察)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見や新たに気づいたことを踏まえて再度、案内文をワークシートに記入する。 ・改善した点とその理由を併せて記入する。 	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討している。 (ワークシート)(授業観察)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。</p> <p>集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。 (ワークシート)(授業観察)</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを行う。 ・ワークシートに本時の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した内容を確認することで、理解を確かなものにする。

国語科学習指導案

日 時 令和5年10月25日(水) 第1校時			
授業者 阿部 和由紀	場所 2-3 教室	対象	2-3 生徒
単元(題材) 扇の的「平家物語」から			

1 本時の目標

- 場面の状況や登場人物の心情を読み取り、物語に描かれているものの見方や考え方について自分の考えをもつ。

2 本時のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	源氏と平家の立場に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。	源氏と平家の立場に着目して、必要な情報を取り出している。	B 基準に達していない
(思考・判断・表現)	必要な情報をつないで、立場の違いでの考え方が伝わるように文章をまとめて書いている。	必要な情報をつないで、文章をまとめて書いている。	B 基準に達していない
(主体的に学習に取り組む態度)	積極的に必要な情報に着目して源氏と平家の立場の違いを確認し、まとめる工夫をしている。	積極的に必要な情報に着目して要約している。	B 基準に達していない

3 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を確かめ、おおまかな学習の流れについて説明しておく。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 的を射た後の場面を読んで、場面の状況や登場人物の心情をとらえる。 <p>★探究タイム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳を参考に、場面の状況や人物の心情を考えながら原文を朗読させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの課題に個々で取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 個々の考えをグループ内で発表する。 グループ内の意見を聞いて自分の考えをまとめる。 	<p>◇ワークシートを用い、「年五十ばかりなる男」が舞った理由、『自分の考えは「あ、射たり。」と「情けなし。」のどちらの声に近いか』、「それぞれの評価は何歳ぐらいの者が言ったのか」について、文章表現を根拠にして考えさせる。(導入問題)</p> <p>個別探究 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由や根拠を説明させる。集団での検討 <p>協同探究</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 源氏側にも様々な立場の武士がいて、いろいろな思いをもって戦っていることを確認する。 自分との類似点、相違点を確認する。 	<p>◇本時で学習した内容を確認することで、理解を確かなものにする。(展開問題)</p> <p>個別探究 2</p>

4 評価規準

- 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合い、他の意見から学ぼうとしている。

社会科学習指導案

日 時	令和5年10月6日（金）第2校時		
授業者	田口 出	場所	1年2組
対象	1年2組		
単元（題材）名	南アジア・西アジア・中央アジアの特徴		

1 単元の目標

- ・南アジアや中央アジア、西アジアの特徴を理解する。
- ・南アジア・中央アジア・西アジアに関わる物事の課題について調べまとめる。

2 「調べ学習の発表」のルーブリック

評価項目	評価基準		
	十分満足できる（5）	おおむね満足できる（3）	努力を要する（1）
主体的に学習に取り組む態度	調べた内容が十分で、自分の言葉でまとめることができている。また、発表は聞きやすい適切な声量で、かつクラスメイトが興味をもつような工夫や、分かりやすく伝える工夫が十分にある。	調べた内容が十分で、おおむねまとめることができている。発表の声量やクラスメイトが興味をもつような工夫、分かりやすく伝える工夫のいずれかができている。	調べた内容をまとめる活動や発表に取り組んでいる。

3 本時の展開（★印は本時の探究タイム）

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】（評価方法）
導入	①ルーブリックの説明を行う。 ②前時の復習を行う。	●前回も行っているので簡潔に行う。 ●生徒が発言しやすいような発問に心がける。
展開	★課題解決型の学習・協働的な探究活動 ①プリントに取り組む（18分） 前半：知識中心 後半：課題解決の調べ学習	●グループで分からないところは聞き合って進める。ここでは極力教員は教えない。
	②プリントの解説・まとめを行う	●視覚的に分かりやすいようにスライドを活用する。 【観点2】（ワークシート）
まとめ	★グループ内で調べたことの発表会を行う。	●1グループについて評価を行う。 【観点3】（発表）

第3学年社会科（公民的分野）指導案

授業日時 令和5年10月12日（木）

6校時（14：30～）

授業者 指導教諭 市川 敦子

授業学級 3年2組（35名）

1 単元 【特設】模擬裁判～3匹の子ぶた殺人事件～

2 単元の目標 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることを理解する。

3 本時の目標

- (1) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。
- (2) 国民が刑事裁判に参加し、国民の視点、感覚が反映されることで司法への信頼を深め、国民の司法参加の意義について考察している。
- (3) 模擬裁判を通して司法や裁判員制度の仕組みや意義を理解し、司法についての関心を高めている。

4 単元の評価計画

- (1) 公民的分野 (2)C 私たちと政治(2)「民主政治と政治参加」ア(ウ)「法に基づく公正な裁判の保障」
 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）より）

	知識・技能 (知・技)	思考・判断・表現 (思・判・表)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
内容のまとめ りごとの 評価規準	・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、公正な世論の形成について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(2) 具体的な評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・模擬裁判という模擬体験を通じて、刑事裁判に関わる裁判官、検察官、弁護人の役割を理解している。	・裁判の内容に国民の視点、感覚が反映されること裁判員制度が導入されたことに着目し、国民の司法参加の意義について考察している。 ・他の生徒との話し合いを通じて、1つの見方だけでなく多角的に物事を見ることの重要性を学び、結論のみにとらわれない論理的思考力を育てている。	・司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されているに気づき、司法に対する信頼を高めている。 ・最終的な結論については1つの答えがあるのではなく、参加した生徒同士が意見を出し合って話し合っ決めていくことが重要であることを学んでいる。

(3) 本単元のルーブリック

甲 (A)	乙 (B)	丙 (C)
・裁判官、検察官、弁護士によって証拠の評価が異なりうることを理解し、将来自らも裁判員として刑事裁判に関与することになったときにどのように考えていくことが重要であることを学んでいる。	・証拠の評価が異なりうることを理解し、将来自らも裁判員となったときにどのように考えていくことが重要であることを学んでいる。	・将来自らも裁判員となったときにどのように考えていくことが重要であることを学んでいる。
・他の生徒との話し合いを通じて、1つの見方だけでなく多角的に物事を見ることの重要性を学び、結論のみにとらわれない論理的思考力を育てている。	・1つの見方だけでなく物事を見ることの重要性を学び、結論のみにとらわれない論理的思考力を育てている。	・結論のみにとらわれない論理的思考力を育てている。
・どのような手続によって1人の人間に対して刑罰を科すことになるのかを学び、自分の意見や異なる意見を互いに出し合って話し合って最終結論を決めていくことが重要であることを学んでいる。	・自分の意見や異なる意見を互いに出し合って話し合って最終結論を決めていくことが重要であることを学んでいる。	・どのような手続によって1人の人間に対して刑罰を科すことになるのかを学んでいる。

5 単元観

「裁判員制度」は、平成21年に「国民の司法参加」としてスタートした。重大な刑事事件の裁判について、20歳以上の国民からくじで選ばれた裁判員が審理に参加し、裁判官とともに、被告人が有罪か無罪か、有罪である場合にはどのような刑にするかを話し合い、決定していく制度である。

「裁判員制度」が始める前と後で地方裁判所の第一審を傍聴したことがある。裁判について何も知らない立場だったとしたら、裁判員に選ばれたときにあの席に座れるだろうか、何を質問すればよいのか、不安ばかり先だってしまうだろう。

「裁判員制度」は、裁判の内容に国民の視点、感覚が反映され、司法に対する国民の理解を深め、その信頼が高まることを期待して導入された。

「模擬裁判」を通して、裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きを理解しながら、国民の司法参加の意義についても考察できるようにしたい。

6 教材観

「模擬裁判」で「裁判員制度」を行うにあたって、「模擬裁判 実践例」から検索した、法務省や弁護士会等の実践例を参考にワークシートを作成した。「被告人」に漠然とした悪いイメージをもっている生徒もいたことから、「NHK for School」の「昔話法廷」「『三匹のこぶた』裁判」を題材に取り上げることとし、「模擬裁判」で使用できる『『三匹のこぶた』裁判』のシナリオを探していた。

この度「福井弁護士会」の「法教育ワークショップ 2004 ■ジュニア・ロースクール福井 ■法教育ミニ・フォーラム 報告書」の『『三匹のこぶた』殺人事件』のシナリオの使用許可をいただき、本単元で実施できることとなった。

「福井弁護士会」のシナリオの終末が「裁判長（陪審員への説示）」となっていたため、本単元では「裁判

員の証人・被告人への質問」と変更し、判決まで行う内容を追加させていただいた。

「模擬裁判」を通して、裁判官、検察官、弁護士などの役割や司法に対する理解を深め、将来生徒が裁判員に選ばれたときに、この経験をいかせるようにしたい。

7 単元指導計画

	学習内容	留意点・評価
導入	○刑事裁判と民事裁判の違い ○裁判員裁判について知る ○配役決め	<input type="checkbox"/> 簡潔に説明する。 <input type="checkbox"/> 昔話法廷「三匹のこぶた」裁判を観て、刑事裁判の様子を知る。
第1時	○裁判で使う基本知識 ○模擬裁判（最終弁論まで）	<input type="checkbox"/> 刑法等の説明 <input type="checkbox"/> 司会を含め、生徒主導で行う。
第2時 【本時】	○裁判員の役割 ○模擬裁判（判決まで） ○司法参加の意義	<input type="checkbox"/> 司会を含め、生徒主導で行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 司法参加の意義について考察している。

8 前時（第1時）

	○学習内容 ●学習活動	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 ■評価
導入	●配役の確認 ●本時の活動・目標 ○自分が裁判員に選ばれたらどうするか？ ○なぜ、国民が裁判に参加する必要があるのか？ ●裁判で使う基本知識 ●法廷配置に座席を移動	<input type="checkbox"/> 配役は、前時までに決定しておく。 <input type="checkbox"/> 刑法等の説明 <input type="checkbox"/> 司会を含め、生徒主導で行う。
展開	○模擬裁判 ●証拠の整理をし、他者との討論しながら、裁判について多面的・多角的に考察する。 ●個々の事実を正確に把握し、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現する。	<input type="checkbox"/> 有罪・無罪の根拠となる事実・証拠を記録し、話し合いのときになるべく多く挙げられるようにしていく。 <input type="checkbox"/> 有罪・無罪の証拠をまとめ、証拠といえないものは省いていく。 <input type="checkbox"/> 証拠の二面性に注目させる。（ある証拠が有罪の証拠ともそうとも言いきれない可能性をもつ場合もある。） <input type="checkbox"/> それぞれの証拠の重要度を考える。（重要度で判断が異なってくる。） <input checked="" type="checkbox"/> 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。（ <input type="checkbox"/> 知・ <input type="checkbox"/> 技）
まとめ	●次時の予告	

9 本時（第2時）

	○学習内容 ●学習活動	□指導上の留意点 ■評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●配役・前時の確認 ●本時の活動・目標 ●法廷配置に座席を移動 	<ul style="list-style-type: none"> □前時の配役と終わった場面の確認をする。 □刑罰を図ることの重さに気付かせる。 □司会を含め、生徒主導で行う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬裁判 ○模擬評議・判決 ●グループに分かれ、有罪・無罪、有罪のときは量刑まで話し合う。 ○判決が不服のとき ●三審制について調べる。 ○裁判員の役割 ●裁判員の守秘義務を確認する。 ○加害者の人権 ●加害者の人権はどのように守られているか調べる。 ○犯罪被害者の人権 □●被害者や家族の人権はどのように守られているか調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> □前時の続き。 ■1人の人間に対して刑罰を科すことに、自分の意見や異なる意見を互いに出し合っ て最終結論を決めていくことが重要であることに気付く。 ■多角的に物事を見ることの重要性を学び、 結論のみにとらわれない論理的思考力を 身に付ける。 □判決が不服のときに三審制があることに 気付く。 □裁判員の守秘義務や裁判員が導入された 理由に気付く。 □裁判の判決のあとの関係者の生活も考え ていけるように促す。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の予定 	

10 評価

- (1) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることに つ
いて理解している。(知・技)
- (2) 国民が刑事裁判に参加し、国民の視点、感覚が反映されることで司法への信頼を深め、国民の 司
法参加の意義について考察している。(思・判・表)
- (3) 模擬裁判を通して司法や裁判員制度の仕組みや意義を理解し、司法についての関心を高めている。(主
体)

数学科学習指導案

日時 令和5年10月3日(火) 第2校時		
授業者 青木 功太	場所 1年4組教室	対象 1年4組
単元(題材)名 1次方程式の利用		

1 単元の目標

方程式について理解し、一元一次方程式を用いて考察することができるようにする。

- ア 方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。
- イ 等式の性質を基にして、方程式が解けることを知ること。
- ウ 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	問題の解決に方程式を利用できることを十分に理解している。つくった方程式を解くことができ、解が吟味できる。	問題の解決に方程式を利用できることを理解している。つくった方程式を解くことができ、解が吟味できる。	問題の解決に方程式を利用しようとしている。つくった方程式を解くことができる。
(思考・判断・表現)	問題文の値から手際よく求められるような方程式を立式し、適切に問題を解決できる。	問題文の値から方程式を立式し、適切に問題を解決できる。	問題文の値から方程式を立式し、適切に問題を解決しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)	方程式を利用して問題を手際よく解決することに関心を持ち、2種類の立式の視点に対して、その利点・欠点を検討しようとしている。	方程式を利用して問題を手際よく解決することに関心を持ち、2種類の立式の視点に対して、自分なりの意見をもとうとしている。	方程式を利用して問題を手際よく解決することに関心をもとうとしている。

3 本時の目標

『手際よく問題を解くための式を考え、答えを求める』

方程式を使って問題を解くうえで、作った式の利点や意味を考え、手際よく解くための式を選択する。

4 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	<p>○本時の課題の提示 『手際よく問題を解くための式を考え、答えを求め る』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ある中学校では全校生徒の 45%が女子で ある。また、男子の人数は女子の人数より 24 人多い。男子の人数を求めなさい。</p> </div>	<p>○問題の内容・意味を確認する。</p>
展 開 ①	<p>○まずは方法を問わず、答えを求めてみるように指 示する。</p> <p>○自分の解法を発表する。</p> <p>○いくつかの方法を比較して、どれが自分に合っ ているかを考えさせ、その理由を発表する。</p>	<p>○生徒が 1 人で考える時間、自由に相談し て教え合う時間を設ける</p> <p>○考えが複数出ない場合は、こちらからこ ういう場合はどうかと問いかける。</p>
展 開 ②	<p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>方程式をつくって問題を解くとき、次のどちらかの方法で方程式をつくってきた。</p> <p>① 問題の答えとなるものを x として方程式をつくる</p> <p>② 問題の答えとは別のものを x として方程式をつくる</p> <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>それぞれがもつメリット、デメリットについて、あなたの考えを書きなさい。(ワークシート)</p> </div> <p>○今までの問題や今回の例題はどちらの方法であ ったか、なぜそれを選んでいたら、選ばなかった かという振り返りの中でメリット、デメリットを 考える。</p> <p>○自分の解法を発表する。</p>	<p>○生徒が 1 人で考える時間、自由に相談し て教え合う時間を設ける。</p> <p>○正解を出すのではなく、主観的な意見で 自由に考えさせる。</p> <p>○生徒の考えを比較し、手際よく解くため の立式の視点を考えさせる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート)</p>
ま と め 5 分	<p>○本時のまとめを行う。</p>	<p>○1 つの問題に対して、様々な見方ができ、 その中から適切な方法を選び出すことの 重要性を気付かせたい。</p>
	<p>時間に余裕がある場合は次の問題に取り組む。</p>	<p>○解くだけでなく、立式の考え方の根拠も 示すようにする。</p> <p>○問題文から人数を x として計算させたい。</p>

□ さんの所属するテニス部では、先輩への卒業記念品を準備することとなり、一人 x 円ずつ集めたところ、 1000 円だけ多くかかることが分かった。そこで、一人につき y 円ずつ追加したところ、必要な費用は集めたお金でちょうどまかなうことができた。かかった費用を求めなさい。

□ さん 何を x とおきますか。また、その理由を答えなさい。

△ さん かかった費用を求めなさい。

数学科学習指導案

日 時	令和5年12月19日(火) 第3校時		
授業者	黄	場所	2年1組教室(3F)
対象	2年1組生徒(標準)		
単元(題材)名	第5章 三角形と四角形 1節 二等辺三角形の性質		

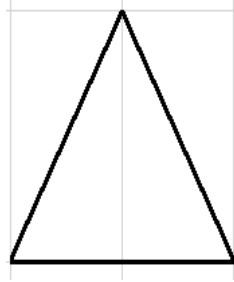
1 本時の目標

二等辺三角形の性質を理解し、三角形の合同条件を使ってその性質を証明する。

2 本時のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> 定義や定理の意味、二等辺三角形の定義と性質を<u>十分に</u>理解している。 図形の定義、図形の性質を説明する際に、記号を使って<u>的確に</u>表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定義や定理の意味、二等辺三角形の定義と性質を理解している。 図形の定義、図形の性質を説明する際に、記号を使って表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定義や定理の意味、二等辺三角形の定義と性質を概ね理解している。
(思考・判断・表現)	二等辺三角形の性質の証明についての見通しを立て、三角形の合同条件のどれを使うのかを既習の学習と関連づけて判断し、証明することができる。	二等辺三角形の性質の証明についての見通しを立て、三角形の合同条件のどれを使うのかを判断し、証明することができる。	二等辺三角形の性質の証明について、三角形の合同条件のどれを使うのかを判断し、証明しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りを視点に従ってしっかりと行っている。 二等辺三角形の定義や性質に関心を持ち、進んで証明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りを視点に従って行っている。 二等辺三角形の定義や性質に関心を持ち、証明しようとしている。 	本時の振り返りが、視点に従って行われておらず、感想のみになっている。

3 本時の展開（◆印は本時の探究タイム）

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 複数の三角形を提示し、その中から二等辺三角形を見つける。（個人作業2分+話し合い1分） 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の定義を復習する。（小3） モニターに投影する。 挙手でア～オを確認。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の定義を提示し、二等辺三角形を作図する。 作図した二等辺三角形をもとに、頂角・底辺・底角を明記する。 二等辺三角形の等しい辺が重なるように折り、2つの底角が等しいことを確認する。 <p>探究タイム</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆二等辺三角形の性質① 二等辺三角形の2つの底角が等しいことを証明する。（ワークシート） どんな補助線をひけばいいかを考える。 話し合う。 説明する。 証明を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ◆二等辺三角形の性質② 二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を説明する。 プリント②をもとに証明・説明文を完成する。 	<p>折り目の線に注目させる</p> <p>【観点2】（ワークシート） 【観点3】（発表・観察）</p> <p>「垂直に二等分する」の意味を説明する。</p>
まとめ	証明するときの根拠として使う2つの定理を振り返る。	

数学科学習指導案

日 時 令和5年7月12日(水) 第1校時		
授業者 飯田 秀規	場所 2階数学少人数教室	対象 2年1,2組(発展コース)
単元(題材)名 連立方程式の利用		

1 単元の目標

身のまわりの問題を、連立方程式を使って解決することができる。

2 本時のねらい

割合の問題を、連立方程式を使って解く。

3 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	割合に関する問題解決に、連立方程式を利用できることを十分に理解している。 つくった連立方程式を解くことができ、的確に解の吟味ができる。	割合に関する問題解決に、連立方程式を利用できることを理解している。 つくった連立方程式を解くことができ、解の吟味ができる。	割合に関する問題解決に、連立方程式を利用しようとしている。 つくった連立方程式を解くことができる。
(思考・判断・表現)	割合に関する問題を、図や表などを使って、連立方程式を利用して解決することができる。	割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)	連立方程式を利用して割合の問題を解決することに関心を持ち、進んで問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	連立方程式を利用して割合の問題を解決することに関心を持ち、問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	連立方程式を利用して割合の問題を解決することに関心をもっている。

4 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	<p>○本時の課題の提示 『連立方程式を使って問題を解決しよう』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ある会社では、昨年度の従業員数は605人でしたが、今年度は男子が8%減り、女子が15%増えて621人になりました。 今年の男子と女子の従業員数をそれぞれ求めなさい。</p> </div>	<p>○問題の内容・意味を確認する。</p> <p>○ワークシートへの記入は式だけでなく、自分の考えや他人の意見で参考になったことも書き残しておくことを伝える。</p>
展 開	<p>○発問 「連立方程式を使って問題を解いてください」</p> <p>○発表 「どのような方程式をつくることができましたか」</p> <p>○解答と解説</p> <p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p>	<p>○自由に解答させる。</p> <p>【観点2】 (ワークシート・発表) 【観点3】 (観察)</p>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>○発問 「別の解答方法は考えられないだろうか…?」</p> <p>○周囲の者への質問や伝え合いを許可する。</p> <p>○発表 「どのような別解が考えられましたか」</p> </div>	<p>○必要に応じて机間指導を行う。 ※昨年度または今年度の人数を文字にすること、人数の増減のみで立式をすることを導きだせるように指導する。</p> <p>【観点2】 (ワークシート・発表) 【観点3】 (観察)</p>
ま と め	<p>○本時の振り返り 「ワークシートに記入してください」</p>	<p>○一つの問題にも複数の解答方法があること、その中から適切な方法を選び出すことの重要性に気付かせたい。</p> <p>【観点3】 (ワークシート・観察)</p>

数学科学習指導案

日 時 令和5年10月19日(木) 4校時 (10月18日(水) 1校時)		
授業者 宮内 瞳	場所 2年5組(2年2組)	対象 2年標準コース
単元(題材)名 1次関数		

1 単元の目標

具体的な事象の中から変数を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係を見出したり表現したりする力を養う。

2 本時のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)			
(思考・判断・表現)	図形の問題を、1次関数の式、グラフを関連付けながら解決することができる。	図形の問題を、1次関数を利用して解決することができる。	図形の問題を、1次関数を利用して解決しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)	1次関数を利用して問題を解決することに関心を持ち、進んで問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	1次関数を利用して問題を解決することに関心を持ち、問題解決の過程を振り返っている。	1次関数を利用して問題を解決することに関心をもっている。

3 本時の目標

図形の面積の変化の様子を、関数の式やグラフを利用して解決することができる。

4 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	<p>○本時の課題の提示 『点Pが動くとき、△ABPの面積はどのように変化するか考えよう』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>右の図のような$\angle C=90^\circ$の直角三角形ABCがある。点Pが△ABCの辺上をBからCを 通ってAまで動く。このとき、△ABPの面積 はどのように変化するか考えよう。</p> </div>	<p>○問題の内容・意味を確認する。点Pが動くシミュレーションを見せて、面積の変化に気付かせる。</p> <p>○ワークシートへの記入は式だけでなく、自分の考えや他人の意見で参考になったことも書き残しておくことを伝える。自分の考えは黒、友達と考えたところは色ペンを使うよう指示を出す。</p> <p>○ループリックを提示し、評価のポイントを生徒に示す。</p>
展 開	<p>○課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点Pが動く辺上によって、面積の変化の仕方が異なることに着目する。 ・変数yは、何を表しているか確認する。 ・三角形の面積の求め方を確認する。 	<p>○式・グラフを使って考えることを伝える。</p> <p>○つまづいている場合、グラフからも式を求めることができることを伝える。</p> <p>○教え合うことで、数学的に説明する活動を取り入れる。</p>
	<p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p> <p>○発問 「点PがBからx cm動いたときの△ABPの面積を、式で表してみよう。」</p> <p>○個人→ペア→全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する時間をとった後、学び合いを通して、考えを深めていく。 ・自分の考えや他者の意見で参考になったことなどは、必ずワークシートに記入させる。 ・分かった人に説明してもらう。 	<p>【評価】ワークシート・発表・観察</p> <p>○机間指導の中で、生徒の気づきを把握しながら助言する。</p> <p>【観点2】(ワークシート) 【観点3】(発表・観察・ワークシート)</p>
	<p>○解答と解説</p>	
ま と め	<p>○本時の振り返り 「ワークシートに記入してください」</p>	<p>○変域によって変化する面積の様子を、式やグラフからも捉えられるようにしたい。</p>

理科学習指導案

日 時 令和5年10月25日(水) 第3校時			
授業者 下出和幸	場所 2-3教室	対象 2-3生徒	
単元(題材)名	単元4 気象のしくみと天気の変化	2章 気圧と風	1 気圧とは何か

1 本時の目標

- 気象要素の中から気圧を取り上げ、大気圧の実験を行い、その結果を空気の分子運動と関連付けて理解する。

2 本時のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C やや努力を要する	D 努力を要する
(知識・技能)				
既習事項・結果・体験などから科学的に <u>正しく</u> 思考している。 (思考・判断・表現)	B基準に加え、実験1,2から考えた内容から、現象を分析して解釈し、表現している。	大気圧について、見通しをもって実験1,2から、気圧は空気の分子の数とその力の大きさと関係があることを分析して解釈し、表現している。	大気圧について、実験1,2から、気圧は空気の分子の数と関係があることを分析して解釈できて、表現している。	C基準を満たしていない。
既習事項・結果・体験などから科学的に思考している。 (主体的に学習に取り組む態度)	B基準に加え、根拠をもとに結論を導いているか、他の現象を説明できるか、新たな問題を見いだしているかなどを確認しながら科学的に探究しようとしている。	大気圧に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組み、科学的に探究しようとしている。	大気圧に進んで関わり、見通しをもったり、自らの学習を調整したりしながら取り組み、科学的に探究しようとしている。	C基準を満たしていない。

3 本時の展開（★印は本時の探究タイム）

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】（評価方法）
導入 10分	<p>○気圧の確認</p> <p>① 【気圧は大気の重さによる圧力】</p> <p>② 【気圧はあらゆる方向に加わる】</p> <p>演示実験：水を入れたプリン容器に紙でふたをしてさかさまにしても落ちない。</p> <p>①だと説明できない？</p>	<p>●何人かに学習内容を発言してもらおう。</p>
展開 35分	<p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p> <p>○プリントを配布し、2種類の実験についての予想と理由を考える。</p> <p>○実験結果を記入する。</p>	<p>●日常生活で体験を例に挙げ、考えるきっかけを与える。</p>
	<p>★探究タイム（個人7分、グループ内5分 他班 3分 個人10分）</p> <p>○個人で、空気の粒子モデルで気圧差が発生する理由を考える。</p> <p>○4人班で、お互いの考えを発表し、共有する。</p> <p>○他班の人と意見を交換し、共有する。</p> <p>○各個人で粒子モデルを修正し、粒子モデルから気圧が高くなる条件と、気圧が低くなる条件をまとめる。</p>	<p>●意見交換を行う際は、自分の意見を他者に伝えるとともに、他者の意見を取り入れ、協力して課題に取り組みさせる。</p> <p>【観点2・観点3】（ワークシート）</p>
まとめ 5分	<p>○振り返りを記入する。</p>	<p>●ループリックで振り返るポイント伝える。</p> <p>【観点2・観点3】（ワークシート）</p>

4 評価規準

観点別評価例		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>★気圧は空気の粒子（分子）の運動により発生していることや空気中であらゆる方向に同じ大きさで働くことを理解し、大気圧による現象についての知識を身に付けている。</p>	<p>・実験の結果から、力の加わる様子の違いは、空気の粒子（分子）の数、運動の激しさで表せることを見だし、大気圧の生じる理由について自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。</p>	<p>・大気圧や圧力に興味をもち、身のまわりの現象と関連付けて、見通しをもって主体的に調べようとしている。</p>

理科学習指導案

日 時 令和5年9月7日(木) 第5校時		
授業者 成瀬晃斗	場所 2-2 教室	対象 2-2
単元(題材)名 いろいろな化学変化 「化学変化と物質の質量」		

1 単元の目標

- ・化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見出して理解する。
- ・化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見出して理解する。

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C やや努力を要する	D 努力を要する
(知識・技能)	B 基準+ ・実験値から、正しいグラフを作成できる。	・誤差をできるだけ小さくするように実験ができる。 ・化学変化と物質の質量の規則性について理解している。	・失敗なく実験ができる。 ・化学変化と物質の質量の関係を見付けている。	C 基準に満たない。
(思考・判断・表現)	B 基準+ ・実験していない物質についても正しい予測ができる。	・条件を制御して、化学変化と物質の質量の規則性を見出すための閉鎖系の実験計画を立案できる。 ・実験結果から、化学変化と物質の質量の規則性を見出している。	・仮説を確かめるための実験計画を立案できる。 ・実験結果から化学変化と物質の質量の関係を見付けている。	C 基準に満たない。
(主体的に学習に取り組む態度)	B 基準+ ・モデルなど、原子と分子の性質を捉えた根拠から、仮説を立てている。	・根拠のある仮説を立てることができ	・仮説を立てている。	C 基準に満たない。

3 本時の展開 (★印は本時の探究タイム) 目標：仮説を検証する実験方法を立案できる。(思・判・表)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	○前時で設定した仮説の確認 【化学変化の前後で質量は変わらない】	
展 開	<p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p> <p>○「もっと探究」の視聴</p> <p>○各班で設定した仮説を検証するための実験計画を立案する。</p>	<p>○各班、反応前後での質量を測定することを明確にする。</p> <p>○行う実験は、「気体が発生する化学変化」「気体が発生しない化学変化」の2種類行うことを明確にする。</p> <p>○動画内の実験のままでは条件がそろっていないため、「条件制御」をして、仮説を証明できる実験の設定をするように指示する。</p> <p>・仮説をもとに、<u>閉鎖系の実験方法を立案</u>できる。【思・判・表】</p>
ま と め	○各班で実験計画をまとめる。	

理科学習指導案

日 時 令和5年10月5日(木) 第5校時		
授業者 川治 文克	場所 3-4教室	対象 第3学年4組
単元(題材)名 生物分野 遺伝の規則性と遺伝子～形質の伝わり方～		

1 単元の目標

交配実験の結果などにもとづいて、親の形質が子や孫に伝わる時の規則性を見いだして理解する。

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C やや努力を要する	D 努力を要する
遺伝の規則性と遺伝子の基本的な概念や原理・法則を理解している。 (知識・技能)	遺伝の法則を理解し、遺伝の規則性を正しく <u>図表に示し</u> 、説明している。	親の形質が子や孫に伝わる時の規則性を <u>説明</u> している。	遺伝の規則性と遺伝子の仕組みを理解し、その知識を身に付けている。	C基準を満たしていない。
遺伝の規則性と遺伝子についての実験から、遺伝現象についての規則性を見いだして表現している。 (思考・判断・表現)	遺伝子の組み合わせとペア・クラスの結果から、 <u>規則性を見いだし</u> 、子から孫にどのような形質が伝わるかを考察している。	遺伝子の組み合わせと <u>ペア・クラスの結果</u> から、子から孫にどのような形質が伝わるかを考察している。	遺伝子の組み合わせから、子から孫にどのような形質が伝わるかを考察している。	C基準を満たしていない。
遺伝の規則性と遺伝子について、科学的に探究しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)	実験結果の信憑性を基に、 <u>次回以降の実験や授業に向けて展望</u> (改善点・活用点)を記述している。	ペアとクラスの実験結果を比較し、信憑性の高い結果はどちらであるか記述している。	結果・考察において、記述すべき箇所に自分の言葉で全て記述している。	C基準を満たしていない。

3 本時の目標

孫の代への形質の伝わり方を考え、顕性の形質と潜性の形質がどのような比で現れるか見いだして、ワークシートに表現する。

4 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	○前時の内容を確認する。(5分) ・スライドを使って以下の内容を復習する。 ① 純系同士を交配したときにできる子の遺伝子の組み合わせと形質について ② 顕性の形質、潜性の形質について	●親の遺伝子が減数分裂によって移動し、生殖細胞に入ることを確認する。 ●子の遺伝子が、A a の組み合わせの場合、顕性の形質が子に現れることを確認する。
展 開	○孫の代への形質の伝わり方を調べる。(5分) ・実験プリントを配布し、方法、注意事項、結果の記録の方法を説明する。 ★探究タイム(実験15分、考察15分)	●ホワイトボードに本時の流れを書くことで、生徒に見通しをもたせる。 ●遺伝子モデルを見せながら、封筒、1膳の割りばし、割りばしを割る動作、1本の割りばしが何を表すのかを考えさせる。
	・2人1組のペアをつくる。 割りばしの遺伝子モデルを使い、孫の代の遺伝子の組み合わせをペアで50回試行する。 ・全ペアの試行結果をスプレッドシートに入力して、クラス全体での試行結果を合計する。 (データ数は50回×ペア数(15~17)=750or850) ・実験結果を基に遺伝子の組み合わせによる形質の伝わり方、遺伝の規則性について考察を行う。 ・自由に意見交換を行い、考察を深める。	●ループリックをスライドで示し、視点を焦点化させる。 【観点2・観点3】 (ワークシート・机間指導) *ペアとクラスの結果を比較することで、試行回数と結果の信憑性について考えている。 *意見交換を行う際、自分の意見を他者に伝えるとともに、他者の意見を取り入れ、協力して課題に取り組んでいる。
ま と め	○本時のまとめを行う。(10分) ・孫の代への形質の伝わり方について、図表にまとめる。 ・図表から、孫の代への形質の伝わり方について、規則性を見いだす。	●図表プリントを配布し、その中に染色体と遺伝子をまとめさせる。 ●まとめた図表から、子から孫の代での、顕性：潜性の比率と規則性を考えさせる。 【観点1】(小テスト・定期考査)

音楽科学習指導案

日時 令和5年10月25日(水)～26日(木)		
授業者 藤井 杏子	場所 第1音楽室	対象 第3学年
単元(題材)名 合唱「大地讃頌」(+「合唱コンクール自由曲」)		

1 題材の目標

1. 知識・技能

「大地讃頌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の歌声などを聴きながら、他者と合わせて「大地讃頌」を歌う技能を身に付ける。

2. 思考・判断・表現

「大地讃頌」の旋律、テクスチャ(声部の役割)、強弱、音色(声色)、リズム、歌詞(発音や抑揚)を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「大地讃頌」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて、思いや意図をもっている。

3. 主体的に学習に取り組む態度

「大地讃頌」の魅力やその背景及び、情景を混声四部合唱で工夫して表現すること、曲想と音楽の構造や歌詞内容との関わり、声部の役割と全体の響きとの関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

2 題材のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	全体における役割や調和のとれた表現のための技能を十分身に付けている。	全体の響きや各パートの声などを聴きながら、適切な発声、発音、音程、強弱などで他者と調和するように歌っている。	発声、発音、音程、強弱の技能が適切ではないか、不十分である。
(思考・判断・表現)	ふさわしい歌唱表現としてどのように音楽表現するかについて、他者の意見も参考にしながら、旋律、テクスチャ(声部の役割)、強弱、音色(声色)、リズム、歌詞(発音や抑揚)を根拠に自分自身の思いや意図を具体的かつ的確にワークシートに記入している。	ふさわしい歌唱表現としてどのように音楽表現するかについて、他者の意見も参考にしながら、旋律、テクスチャ(声部の役割)、強弱、音色(声色)、リズム、歌詞(発音や抑揚)を根拠に自分自身の思いや意図をワークシートに記入している。	ふさわしい歌唱表現としてどのように音楽表現するかについて、記述内容が適切ではないか、不十分である。
(主体的に学習に取り組む態度)	魅力や背景及び情景を混声四部合唱で工夫して表現することに強い関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、他者と自己との調整を図りながら、主体的・協働的かつ積極的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	魅力や背景及び情景を混声四部合唱で工夫して表現することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	工夫して表現することに対する関心が薄いか、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする姿勢が乏しい。

3 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

本時の目標 他者のアドバイスを参考にしながら、自身の課題を発見し、その解決のために歌唱表現を工夫する。

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	① 本時の流れを知る。	・ワークシート付き実技試験の評価表(ルーブリック形式)を配布
展 開	② 録画を見る。 ★課題解決型・協働的な探究学習 ・金曜日の合唱コンクールと次回の授業の実技試験に向けて自分の課題を楽譜にメモを取り、表現の工夫について実技試験の評価表に記入する。(書ききれない分は宿題とする) ・録画を見て、気づいたこと(良い点・改善点)を指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心にアドバイスをし合い、全体や各パートの課題を発見し、共有する。	・本時の授業で自分の課題を少しでも改善できるよう意識させる。 ・録画後の合唱練習期間で感じたことを記入または言及してもよい。 ・他パートについて言及してもよい。 ・楽譜の余白やメモ欄にメモを取っていく。 ・スクリーンにジャムボードの楽譜を表示し、課題となる部分にその場で印をつけていく。 【観点②】「評価表」から評価する。
	③ ブレストレーニング、発声をする。 ④ 「大地讃頌」を合唱しながら仕上げる。 ⑤ 「自由曲」を合唱しながら仕上げる。	・探究タイムで出てきた課題や教員が気付いた点にポイントを絞って、指導する。
ま と め	⑥ 2曲通して合唱する。	・本時の授業で学習したことや、自身の課題を解決して表現できるよう促す。 連絡事項 ・次回実技試験。楽譜提出。 ・試験後に振り返りシート(実技試験の評価項目のキーワードを使用して)記入。

美術科学習指導案

日 時 令和5年5月25日(木)

第5校時 13:30～14:20

対 象 第3学年5組 35名

学校名 府中市立浅間中学校

授業者 主任教諭 榊原 晶子

会 場 1階 第2美術室

- 1 題材名 「一万年後の生物」 A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)
共通事項(1)ア、イ

2 題材の目標

(1)「知識・技能」に関する目標

- ・ 生物の形や色彩、動きや質感などの性質やそれらが感情にもたらす効果について理解する。
- ・ 石塑粘土の表現や用具の特性を創意工夫して、創造的に表現する。

(2)「思考力・判断力・表現力」に関する目標

- ・ 生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象などから想像したことを基に主題を生み出し、表現の意図に応じて、材料や用具の生かし方、制作の手順について総合的に考えて構想を練る。
- ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の表したいイメージの構想を練ったり、材料や用具を創意工夫したりして表現する学習活動に取り組もうとする。
- ・ 造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に 学習に取り組む態度
<p>① 生物の形や色彩、動きや質感などの造形的な視点について理解している。</p> <p>② 石塑粘土の表現や用具の特性を創意工夫して、創造的に表現している。</p>	<p>① 生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象などから想像したことをもとに主題を生み出している。</p> <p>② 表現の意図に応じて、材料や用具の生かし方、制作の手順について総合的に考えて構想を練っている。</p> <p>③ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>① 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の表したいイメージの構想を練ったり、材料や用具を創意工夫したりして表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導観

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)美術科、

〔第 2 学年及び第 3 学年〕 内容

A 表現

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて

て考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

本題材は、自然のさまざまな形態について造形的な視点を働かせて、現在の地球で起きている事象や科学的な知識などから想像したことをもとに、一万年後の地球で生きている生物を立体で表現する。授業に用いる石塑粘土はきめ細かい表現が可能であり、生徒は形や色彩、質感のイメージを追求して創造的に表す資質・能力を発揮することができる。授業では材料や用具の特性を生かして創造的に表現する技能を重点的に指導するため、相互鑑賞や意見交換を適時取り入れ、生徒の見方や感じ方を広げていく。

鑑賞では、お互いの作品の造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図や工夫について感じ取るとともに、形や色彩、材料などが感情にもたらす性質に気づかせるため、鑑賞の視点を示しながら指導する。主体的に学習に取り組む態度を育成するため、使用する用具や表現方法、制作の手順について生徒自身が考えて進めていける授業を構成する。想像した地球の未来を作品として具現化することを通して、現在の地球や人類の未来について見方や考え方を深め、社会や人生の在り方を創造的に考えるための豊かな感性を育む。

(2) 生徒観

「一万年後の生物」という題材は日常生活から離れた印象を与えるが、漫画やゲームの分野では想像上の生物は馴染みのあるモチーフであり、生徒にとって親しみがもてるテーマだと考えている。3年生の生徒は、各教科や道徳、総合的な学習の時間を通して環境問題や持続可能な社会の実現について考える学習に取り組んでおり、主題を発想する際は、社会や世界との関わりの中で学んだことを生かすことができる。彫刻の知識や技能については、1年生のときに紙粘土による立体作品の制作を経験しており、用具の基本的な扱い方や表現の特徴について理解している。しかし、2年生で行った画家のアトリエの家具を表現する題材では、自分の表現の意図に合わせて複数の造形要素や材料や用具を組み合わせることに苦労が見られた。従って、本題材では生徒の構想の具体的なイメージをワークシートにまとめ、自分のイメージを表現するためにどのように材料や用具を創意工夫すればよいのか判断する能力や、粘り強く試行錯誤を重ねて自らのイメージを追求する態度を養い、創造活動の喜びを実感できる学習活動にする。

(3) 教材観

ア 石塑粘土は、材料や用具を工夫することで幅広い表現が可能である。1～2週間で乾燥するため、収縮率が低く、ひび割れも起きにくい。水で溶かしながら表面を整えて円滑にしたり、乾燥後に削って彫刻したりすることも可能である。芯材として用いる材料には新聞紙やアルミホイル、針金や麻紐を用意しており、必要に応じて作品の強度や大きさ、重心の位置を変更することができる。授業ではこれらの特徴や過去の作例、映像資料や3次元グラフィックスを生徒に示して理解を促し、表現の意図に応じて材料や用具を選択できるようにする。

イ ワークシートは、生徒の作品のイメージや構想が一目でわかるようにレイアウトを工夫した。ワークシートを使って色彩や質感のイメージ、動きといった視点で考えさせることで、構想をより具体化し、話し合い活動でも活用できるようにした。

ウ 制作は6人の班の形で行い、用具の準備や片付けを協力して進められるようにする。つげべらや竹ぐしなどの用具はトレイで班ごとに管理し、すぐに手に取れる環境を作ることで幅広い表現方法を試せるようにした。安全上の観点から、石彫刀は個別に貸し出しを行う。

(ア) 児童が用意するもの

タブレット端末、美術資料集、アクリルガッシュ

(イ) 授業者が用意するもの

石塑粘土、新聞紙、アルミホイル、針金、麻紐、割り箸、爪楊枝、のし棒、つげべら、竹ぐし、歯ブラシ、テグス、紙パレット、ボール、石彫刀、紙やすり、ペンチ、バケツ、タブレット端末

5 年間指導計画における位置付け

	題材名	学習内容
第1学年	私の靴	靴のモチーフから想像したことをもとに主題を構想し、形や色彩のイメージを広げながら、紙粘土で表現する活動に取り組んだ。粘土の特性や用具の使い方について、基礎的な技能を学習した。
第2学年	部屋のカラーコーディネート	色彩の三要素や配色の知識を学習し、色彩や配色の組み合わせが感情にもたらす効果について学習した。表現の意図に応じて部屋のインテリアの配色を構想し、タブレット端末の描画ソフトを使って表現する活動に取り組んだ。
	ゲルニカの鑑賞	ピカソの生涯やゲルニカが描かれた背景を理解し、作風の変化などを感じ取りながら、作者の心情や表現の意図について考える活動に取り組んだ。ゲルニカ市民の当時の混乱の様子を動画で視聴し、ピカソの心情などについて班で話し合ったり、ゲルニカの部分を模写するなどして、美術と社会との関わりについて見方や感じ方を深めた。
	画家のアトリエ	教科書や資料集で紹介されている画家の作品や作風、生い立ちなどから想像したことをもとに、画家のアトリエを6人の班で構想して共同制作に取り組んだ。作品のよさや美しさを捉えながら、材料と用具を創意工夫して表現した。
	In my sky～心の中の自画像～	自分の心の内面を主題に、表現の意図に応じて表情や動作、構図を工夫しながら、心の中の空のイメージと自分自身を水彩の特性を生かして表現する活動に取り組んだ。
第3学年	一万年後の生物 (本題材)	生物の造形的なよさや美しさを感じ取り、形や色彩、質感になどの性質について理解する。一万年後の生物について自然の事象などから想像したことをもとに主題を生み出し、石塑粘土や用具の特性を創意工夫して創造的に表現する。

6 題材の指導計画と評価計画（全14時間）

		ねらい	学習内容・学習活動	評価規準		評価方法等
				内容	記録	
第1次	第1時	生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象などに着目し、1万年後の生物を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を理解する。 ・タブレット端末を用いて、生物の造形的な美しさ、進化による形や色彩の変化、気候変動など構想を練るための参考となるテーマを班で決める。 ・1万年後の生物について、考えたことを班で話し合う。 	ウ①		活動の様子 の観察
	第2時	タブレット端末で調べたことをもとに、生物の造形の形や色彩、動きなどの造形的な視点について理解し、構想を練る。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を用いて、生物の形や色彩、習性などの特徴を理解する。 ・班のテーマについて調べたことをもとに、1万年後の生物について構想を練り、考えたことをプレゼンテーションソフトにまとめる。 	ウ①	○	活動の様子 の観察、プ レゼンテー ション、授 業の振り返 り
	第3時	生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象などから想像したことをもとに主題を生み出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象について調べたことをもとに、1万年後の生物について考えたことを班で発表する。 ・生物の造形的なよさや美しさ、自然の事象などから想像したことをもとに、主題を生み出す。 	ウ① イ①	○ ○	プレゼンテ ーション、 活動の様子 の観察
	第4時	一万年後の生物の形や色彩、質感など構想したことをもとに、スケッチで表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックで本単元の目標を理解する。 ・ワークシートに自分の表したいイメージの構想をスケッチする。 ・美術資料集や参考作品を見て、石膏粘土の表現や用具の特性を理解し、材料や用具の生かし方を考える。 	イ① イ② ウ①	○ ○ ○	ワークシー ト、活動の 様子の観 察、対話、 授業カード
	第5時	表現の意図に応じて、材料や用具の生かし方、制作の手順について総合的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・構想した生物の習性などから、動きのイメージを構想する。 ・材料や用具の生かし方、制作の手順について考えたことをワークシートにまとめる。 	イ① イ② ウ①	○ ○ ○	ワークシー ト、活動の 様子の観 察、対話、 授業カード
	第6時	構想した生物の形や動きをもとに、	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい動きのイメージや大きさ、量感、重心などをワークシー 	ア①		作品、活動 の様子を観

		石塑粘土の特性を 創意工夫して表現 する。	トで確認する。 ・芯材となる材料や針金の使い方、 用具を使用する際の注意点や片 付け方法について理解する。 ・制作の見通しをもち、制作の手順 や材料や用具の生かし方を考え て創意工夫して表現する。	ア② ウ①	○ ○	察、対話、 授業カード
第7時 (本時)		生物の形などの造 形的な視点を理解 して、材料や用具 の特性を創意工夫 して表現する。	・剥製や3次元グラフィックスの画 像を用いて、生物の立体的な形な どの見方や感じ方を広げる。 ・表したいイメージの参考となる生 物の立体的な形について、造形的 な視点を働かせながら新聞紙や アルミホイル、針金などで創意工 夫して表現する。 ・班でお互いの作品を鑑賞し、生物 の形や材料や用具の工夫の方法 について話し合う。	ア① ア② ウ① ウ②	○ ○	活動の様子 の観察 作品 活動の様子 の観察、対 話、授業カ ード
第8時		生物の動きや質感 などの造形的な視 点を理解して、材料 や用具の特性を創 意工夫して表現す る。	・剥製や3次元グラフィックスの映 像を用いて、生物の動きや質感な どの見方や感じ方を広げる。 ・表したいイメージの参考となる生 物の動きや質感について、造形的 な視点を働かせながらつげべら や竹ぐし、歯ブラシなどで創意工 夫して表現する。 ・班でお互いの作品を鑑賞し、生物 の動きや質感などの視点で話し 合う。 ・メディウムやニスなど複数の用具 を組み合わせたり、制作の手順な どを総合的に考えて、ワークシー トに構想を練る。	ア① ア② ウ① イ②	○ ○	活動の様子 の観察 活動の様子 の観察、対 話、授業カ ード ワークシー ト
第9時		自分の表したいイ メージに合わせて、 造形的な視点を働 かせながら、表現方 法を考える。	・プロジェクターで仲間の作品を鑑 賞し、形や奥行き、動きや質感な どの造形的な視点をもとに材料 や用具をどのように生かしてい るか理解する。 ・班でお互いの作品を鑑賞し、自分 が表したいイメージを表現する ために効果的な材料や用具につ	ア① ウ①	○	活動の様子 の観察、授 業カード、 作品 活動の様子 の観察

		<p>いて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水で溶かす、彫るなどの幅広い表現方法を構想する。 ・造形的な見方や考え方を働かせながら、表現の意図に応じて材料や用具の生かし方、制作の手順を考えて表現する。 	ア②	○	作品、活動の様子を観察、対話
第10時	自分の表したいイメージを追求し、材料や用具の表現方法を創意工夫して創造的に表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで作品を鑑賞し、造形的な視点を働かせて材料や用具をどのように創意工夫しているか理解する。 ・水や石彫刀、やすりなど複数の材料や用具を創意工夫して創造的に表現する。 ・ループリックを用いて学習を振り返り、色彩の表現方法について構想を練る。 	ウ② ア② ウ①	○ ○ ○	活動の様子を観察、授業カード 作品、活動の様子を観察、対話 授業カード
第11時	生物の色彩や質感などの造形的な視点をもとに、表現方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が作成したプレゼンテーションを用いて、生物の色彩や質感などの見方や感じ方を広げる。 ・これまで学習した色彩の三要素やぼかし、にじみ、ドライブラシなどの水彩の技法を振り返る。 ・色彩の彩度や明度、濃淡の変化、重色と混色の効果、タッチの生かし方を考えて表現する。 	ア① ア②	○	活動の様子を観察、作品 作品、活動の様子を観察、対話、授業カード
第12時	自分の表したいイメージに合わせて、絵の具や用具の表現方法を創意工夫して表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・班でお互いの作品を鑑賞し、自分が表したいイメージを表現するために効果的な色彩や質感の表現方法について話し合う。 ・色彩や濃淡の変化、重色と混色の効果、タッチの生かし方などを組み合わせる創造的に表現する。 	ア② ウ① ウ②	○ ○ ○	活動の様子を観察 作品、活動の様子を観察、対話、授業カード
第13時	自分の表したいイメージを追求し、材料や用具を創意工夫して創造的に表	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターで仲間の作品を鑑賞し、色彩や質感などの造形的な視点を働かせて材料や用具をどのように創意工夫しているか理 	ウ②	○	活動の様子を観察、作品

		現する。	解する。 ・ニスやメディウムを使った仕上げの方法や展示方法、絵の具の特性を生かした表現方法について考えながら、創造的に表現する。 ・ルーブリックを用いて単元の学習を振り返る。	ア② ウ①	○ ○	作品、活動の様子を観察、対話 振り返りシート
第2次	第14時	仲間の作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。	・自分の作品の表現の意図や工夫などについて説明文を作成し、展示する。 ・仲間の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、作者の表現の工夫などについて考える。 ・鑑賞を通して仲間の作品から感じたことや単元の学習を通して考えたことをレポートにまとめる。	ウ②	○	鑑賞レポート

7 指導に当たって

(1) 教材解釈・教材開発にあたって

形や色彩、質感などこれまで学習した造形的な視点を働かせながら、創造的に表現することに注力できる題材が必要であったため、現実世界に存在する生物の特徴を参考にしながら創造性を発揮できる「一万年後の生物」を考えた。過去には「想像上の生物」という題材で授業を行ったが、形やイメージの組み合わせ方に発想の広がり少なく、構想した主題に奥行きをもたせることができなかった。本題材では、気候変動や環境問題、テクノロジーといった教科横断的な視点を働かせることで、作品のもつ意味に広がりをもたせ、社会と美術の関わりについて実感できるように指導する。

統率力・指導技術については、タイマーを活用して話し合いや制作といった学習活動を明確に分けるとともに、準備や片付けを班で行うことで生徒の動きを効率化する。教材については、WEB上で公開されている3次元グラフィックスの活用や自作の動画資料を用いて、形や質感、動きのイメージを広げる。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、工夫・改善したこと

ア 授業形態の工夫

班の話し合いでは、話し合う内容について視点を明確に示すことで、短い時間でも効果的な話し合い活動が行えるようにする。また生徒の疑問や悩みを班で共有させることで制作への不安を軽減し、個別指導に生かす。

イ 指導方法の工夫

ルーブリックを活用して学習の目標と観点、尺度を明確化し、生徒同士の相互評価や個人内評価に活用することで、学習到達度の振り返りができるようにする。

単元全体のルーブリック（A表現）

	A	B	C
知識・技能	生物の形や色彩、質感、動きなど幅広い造形的な視点を働かせて、粘土や用具を創意工夫して独創的に表す。	生物の形や色彩、質感を理解し、粘土や用具の特性を創意工夫して創造的に表す。	生物の形や色彩をとらえ、粘土や用具を生かして表す。
思考・判断・表現	表したいイメージに応じて複数の材料や用具の生かし方、制作の手順や表現方法などを総合的に考え、主題を生み出して構想を練る。	表したいイメージに応じて材料や用具の生かし方、制作の手順などを総合的に考え、主題を生み出して構想を練る。	表したいイメージに応じて材料や用具の生かし方などを考え、主題を生み出す。
主体的に学習に取り組む態度	イメージの構想から深めたことをもとに、独自の表現方法を追求している。	自ら考えたことやイメージをもとに、材料や用具の生かし方を工夫している。	表したいイメージをもとに、材料や用具の生かし方を考えている。

8 本 時（全 14 時間中の第 7 時）

（1）本時の目標

生物の形などの造形的な視点を理解して、材料や用具の特性を創意工夫して表現する。

（2）本時の展開

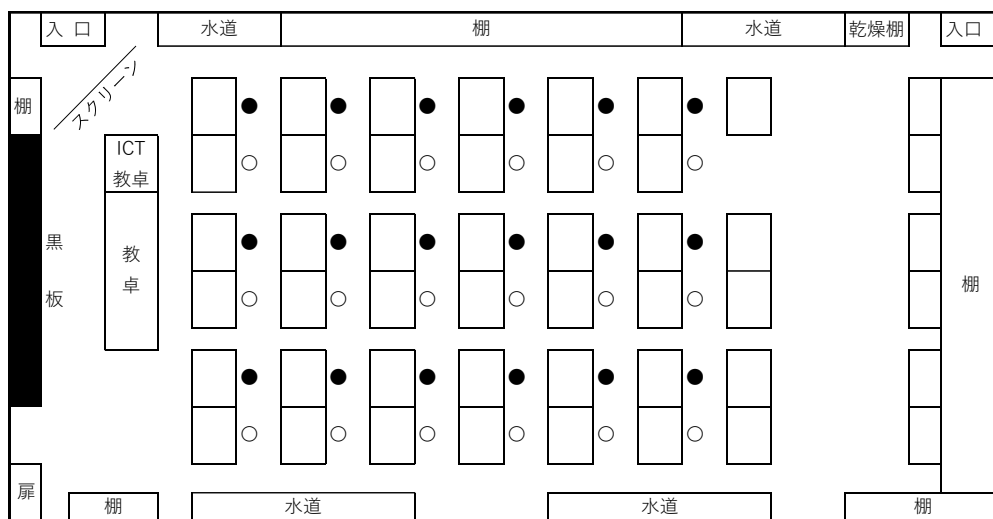
時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 8 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習を振り返る。 <生徒の活動や発言> □頭が大きすぎる気がする。 □下半身のバランスが変だな。 ○生物の立体的な形をとらえ、造形的な視点を理解する。 ・ 本時のねらいを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表したい動きのイメージや大きさ、量感、重心をもとに、芯材となる材料や用具をどのように生かすことができるか振り返る。 ・ プロジェクターで 3 次元グラフィックスの画像を映し、画像を比較して形の違いを考えさせる。 	ア① 活動の様子 の観察

		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標とルーブリックを提示する。 		
展開 37分	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージの構想を確認する。 ・班で協力して、材料と用具を準備する。 <p>○造形的な視点を働かせながら、新聞紙やアルミホイル、針金、つげべらなどで創意工夫して表現する。(15分)</p> <p>○班でお互いの作品を鑑賞し、話し合う。(5分)</p> <p><生徒の活動や発言></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>体と頭の比率はどうか？ <input type="checkbox"/>粘土がくっつかないな。 <input type="checkbox"/>この用具はどうやって使えばいいのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで気づいたことをもとに用具の生かし方を創意工夫したり、さまざまな表現方法を試行錯誤する。(10分) ・班で協力して、材料と用具を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチは机上に置き、制作を始める前にタブレット端末で参考となる生物の画像を確認するように伝える。 ・制作の進度が遅れている生徒には、最初は量感を意識して成形することを伝えるなど、見通しをもたせる。 ・タイマーを示し、生物の形を表すための材料や用具の効果的な生かし方について話し合うように伝える。 ・表したいイメージに合わせて、さまざまな用具を試すように伝える。 ・さまざまな角度から作品を見るように伝えて、立体的に捉える視点を意識させる。 ・話し合いをもとに用具の特性を創意工夫して表現している生徒の取り組みを価値付けする。 	ア② ウ①	作品 活動の様子 の観察、対話
ま と め 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容について振り返る。 ・次時の学習について見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージに合わせて、形などの造形的な視点を働かせて表現している生徒の作品などを紹介する。 ・振り返りを通して、本時の目標に対するの実現状況などを確認する。 ・次時の学習への見通しをもたせる。 	ウ① ウ②	授業カード

(3) 板書計画

題 材 名 「一万年後の生物」	タイマー
今日のねらい 生物の形などの造形的な視点を理解して、用具の特性を創意工夫して表現しよう。	制作のポイント ・スケッチは机の上に置く。

(4) 学習環境



(5) 授業観察の視点

〈目標〉

- ・美術科の目標、題材の目標、本時の目標、ルーブリックで示した目標と尺度は3年生として適切であったか。
- ・造形的な視点を理解するために提示した3次元グラフィックスなどの資料は適切であったか。

〈展開〉

- ・話し合い活動は、生徒の材料や用具の創意工夫につなげることに効果的であったか。
- ・用具の数や種類は、適切であったか。

〈学習活動、指導上の配慮事項〉

- ・班で活動する学習形態は、特別な配慮を要する児童・生徒に有効であったか。

保健体育科学習指導案

日 時 令和5年9月25日(月)第3校時		
授業者 加倉井 洋介	場所 武道場	対象 3年1組
単元(題材)名 器械運動・マット運動		

1 単元の目標

基本的な技や条件を変えた技、発展技をできるようにしたり、自分に適した技を組み合わせで演技したりできるようにする。

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	条件を変えた技や発展技を含む3つの技を組み合わせでなめらかに演技することができる。	条件を変えた技を含む3つの技を組み合わせで演技することができる。	基本的な技を3つ組み合わせで演技することができる。
(思考・判断・表現)	練習のポイントを考え、工夫した取り組みを自分の言葉で表現している。また、課題解決に向けた具体的な方法や解決策を考え、実践している。	練習のポイントを考え、工夫して取り組みようとしている。また、工夫した取り組みを言葉で表現することができる。	練習のポイントを考えることができている。
(主体的に学習に取り組む態度)	活動の中で見つけたポイントを整理したり、まとめたりすることで理解を深め、他の人に伝えられるようにしている。	活動の中で見つけたポイントを整理したり、自分の言葉でまとめたりしている。	活動の中で見つけたポイントを理解している。

3 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

本時の目標➡自分に合った技の組み合わせを考える

組み合わせた技を滑らかに行えるよう、自己の課題に合った練習方法を考える

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	①本時の目標・流れ確認 ②2人組ストレッチ→補強のストレッチ	
展 開	③ウォームアップ ○前転と後転の組み合わせ練習	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの技を繋ぎ、スムーズに行えるよう声掛けを行う。 ・前転、後転の順番を変えても良いこと、方向を変えて取り組んでよいことを伝える
	<p>★課題解決型の学習・協働的な探究活動</p> <p>④課題別演技練習 ○3つの技を組み合わせで演技を行うための練習 ※演技発表は最後の授業で行う</p> <p>⑤演技リハーサル ☆3つの技を組み合わせたものを1回行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技の組み合わせを考える ・1つの技に着目して練習してもよい ・練習の中でタブレットを使用し、動画を見ることが、動画を撮影して確認することが可能であることを伝える <p>※その場合、タブレットの取り扱い方や置き場所など場の安全を確保するようにする</p> <p>自己の課題に即して3つの技の組み合わせを考えながら練習を行っている。 【観点1・観点2】</p>
ま と め	⑥振り返りシート記入	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで振り返りシートを入力する。(観点2)

保健体育科学習指導案

日 時 令和5年10月25日(水)第3校時		
授業者 中村 佳子	場所 武道場	対象 2年4組
単元(題材)名 器械運動・マット運動		

1 単元の目標

倒立前転を課題の技として、他の基本技や発展技をできるようにし、自分の能力に適した技を組み合わせ、演技できるようにする。

2 単元のルーブリック

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> 倒立前転を、安定した倒立からきれいにでき、安全に補助することができる。 平均立ち技と倒立前転、発展的な技を含む4つの連続する技ができる。 倒立前転のコツを理解し、安全に補助する方法を理解している。 平均立ち技と倒立前転、発展的な技を含む4つの連続する技の組み合わせが工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 倒立前転を、安定した倒立、又は補助倒立からできる。 平均立ち技と倒立前転を含む、4つの連続する技ができる。 倒立前転のコツを理解している。 平均立ち技と倒立前転を含む、4つの連続する技の組み合わせができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 倒立前転を、安定した倒立、又は補助倒立からできない。 平均立ち技と倒立前転を含む、4つの連続する技ができない。 倒立前転のコツを理解していない。 平均立ち技と倒立前転を含む、4つの連続する技の組み合わせができない。
(思考・判断・表現)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を設定し、解決方法を考え、ポイントを絞り、取り組んでいる。 課題解決の方法と、改善方法を学習カードにポイントを見つけ記入できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を設定し、解決方法を考え、取り組んでいる。 課題解決の方法と、改善方法を学習カードに記入できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を設定し、解決方法を考え、取り組めていない。 課題解決の方法と、改善方法を学習カードに記入できていない。
(主体的に学習に取り組む態度)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の決めた課題を積極的に達成しようとしている。 課題の取組と、途中で自分の課題を確認し、粘り強く改善しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の決めた課題を達成しようとしている。 課題の取組と、途中で自分の課題を確認し、改善しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の決めた課題を達成しようとしていない。 課題の取組と、途中で自分の課題を確認し、改善しようとしていない。

3 本時の目標

- ・規定の技を含む4つの技の演技構成で、自分の能力に合った技の選択をして連続技として構成する。
- ・グループ内で演技を見合うことで、仲間の演技の良いところや課題をアドバイスし合いながら、互いに課題解決できるようにする。

4 本時の展開 (★印は本時の探究タイム)

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準【観点】(評価方法)
導 入	①本時のねらい ②ストレッチ・体幹トレーニング ③基本の連続技	○技を連続して演技するポイントを確認する。
展 開	④平均立ち技からの倒立前転練習 ・自分の能力に合った平均立ち技を選び、倒立前転につなげる。 ・グループ内で、タブレットを活用し、互いの演技を撮り、自分の動きの確認をする。	○平均立ち技と、倒立前転の出来栄の見えるポイントを確認する。 ○タブレットで撮ってもらった自分の動きから、自身の改善点を見付け課題に取り組んでいるか。
	★課題解決型の学習・協働的な探究活動 ⑤連続する4つの技の演技構成を考える。 ・平均立ち技⇒倒立前転⇒選択技2種類を、自分の選んだ課題で練習に取り組む。 ・グループ内で、補助をしあったり、技を見せ合ったりしながらアドバイスをし、連続技の構成を考える。	○自分の能力に合った技の選択ができているか。【思・判・表】 ○お互いに補助することや、アドバイスをしあうことで、課題解決の改善につながっているか。【主体・協働的な探究】
ま と め	⑥本時の振り返り ・タブレットで自分の動きを確認し、次回の課題を考える。	○今の段階での課題の完成度から、改善すべきポイントを伝える。